

理解・啓発 編

Q32

地域の方々に障害に対する 理解啓発をすすめるためには？

まずは
ここから



- 地域で豊かな生活を送れるようにすることが目的です。
- 知識面を伝達するだけでなく、参加型の研修を工夫します。

子どもたちは、地域で生活できてこそ、本人らしさが発揮されます。地域の中に、積極的に支援しようとする方が増えていくようにしたいものです。

ある小学校で行った地域研修会の概要を紹介します。

子ども理解を
進める地域研修会
〇〇小学校

参加者：公民館・育成会関係者、保護者、学校関係者等
人数：20～40人
時間：2時間



起

◆ 研修会の流れの確認

40分

演習

◆ 仲間づくり・グループづくり

① 雰囲気や和らげる演習『お～ちた おちた』『な～いた ないた』

ゲーム方法：『お～ちた おちた』

(全員)「お～ちた, おちた, な～にがおちた」

(リーダー)「かみなり」

(全員) おへそをおさえるジェスチャー (間違えた人は抜ける。)

* 「りんごは胸の前に手を出す」「げんこつは頭をおさえる」など、ルールを決めておく。第1段階は見本にそろえ、第2段階は意図的に間違える見本につられないようにする

ゲーム方法：『な～いた ないた』

(全員)「な～いた, ないた, な～にがないた」

(リーダー)「うし」

(全員)「モウー」

* 必ず、鳴くことを確認しておく。第1段階は提示する動物に合う鳴き声を、第2段階は鳴かない動物等も提示し、鳴いてもらう。

② 仲間の誘い方を学ぶ演習：『いっしょに遊ぼうゲーム』(参考図書)

③ 4人グループを作る『四コマ漫画』

ゲーム方法：全員に四コマ漫画の一コマを配り、1話となる四コマ漫画の仲間を探す。集まったグループごとに自己紹介をする。

* ソーシャルスキル教育で
子どもが変わる(小学校)
監修 國分康孝
編著 小林正幸, 相川 充
図書文化

講話

◆ 研修会の最終目標の確認

「人とうまくかかわれない子」に、明日から、自分ができることは何？

承

30分

演習

◆ ワークシートの記入1 (右表参照)

A: 「人とのかかわり方」でおやっと思う子ども・事は?

B: その子・事にあなたはどんな関わり方をしてきましたか?

- ① 個人 ② グループ検討 ③ 全体発表

* 子どもを理解し、接していたかを問い返していきます。

「人との関わり方」で
おやっと思う子・事は?

その子・事に、あなたは、どんな関わり方を
してきましたか?

その子と、()
ために、明日からあなたにできることは
何ですか?

転

20分

講話

◆ 見ているだけでは分からないことがあることへの気付き

『手品』を例に: 手品に種があるように、問題と思う行動には原因がある。

◆ 「自分ではどうしてもなく困っている子」がいることへの気付き

- 落ち着きがない, 乱暴, 自分勝手, 話を聞かない, 忘れ物 等
- 友達に対し無関心, こだわり, パニック, 冗談が通じない 等

【ポイント】 わざとやっているのではなく、周囲の理解と協力が必要な子である。伝えたいことがうまく伝えられなくて困っていることを理解する。

演習

◆ 「伝えたいことがうまく伝えられない」の演習『うまく伝わるかな?』

演習の方法: 2人組をつくり、Aは課題の絵を言葉で説明、Bは説明だけを聞いて絵を見ずにかく。絵の出来栄を見合い、交替する。

【ポイント】 自分の思った通りにいかないと、自分自身へのよいイメージが低下していく。こうした経験が積み重なると、セルフエスティームは低くなってしまふ。

講話

◆ 「セルフエスティームが低い子を支えるにはどうしたらよいか」の検討

- 躰の基本: 「してみせて」「言ってきかせて」「させてみて」「よく褒める」
- 機会を増やすために「人とのつながり」を大切に

* 具体例を基にして、子どもと共に学び育つ姿勢の大切さを再確認します。

演習

◆ ワークシートの記入2

C: その子と「つながりを増やす」ために明日からあなたにできることは何ですか?

- ① 個人 ② グループ検討 ③ 全体発表

* 子どもの気持ちに寄り添い、自分のこととして接し方を考えます。

結

30分

◆ まとめ

研修会全体を通しての感想を発表する。



【キーポイント】 参加者同士のつながりにじっくり時間を確保します。① 課題を一つに絞る。② 自分の課題となるように全員の共通意識を高める。③ 研修を振り返り感想を分かち合う時間を確保する。この3点が構成上のポイントです。